

畜産振興の芽ばえ 和牛二十五頭導入

中島沼農業を二袋させる苗穂 現在三頭以上飼育農家が十六戸出るとは、開拓地も増々とすみ目には、清津川右岸段丘地の開田が順調に進歩し、中里村農業の飛躍的な発展が望まれようとしている。村としても、地区ごとに立地条件を生かして農業振興計画が立てられているが、なかでも畜産振興については、和牛の導入が重要な役割を果している。その一環として和牛の産地化をめざしているが、去る十一月二十三日、鳥根農産の優良和牛の子牛二十五頭が導入され、それぞれ農家に引渡された。和牛導入事業は、昭和四十一年より継続しておこなわれているが、伸びて現在村内だけでも三頭、牛乳を流し送るというものである。

今後の和牛生産の目標は、年間五頭以上と定めているが、飼料生産を基盤を改良し、立地条件を生かして和牛を飼育し、増産を図ることにより、農業所得の増大をはかりたいものである。また、近年牛乳の消費は、著しく伸びて現存村内だけでも三頭、牛乳を流し送るというものである。



乳の消費は一日約三百七十リットルと推定されている。中里村では乳牛は従来の開拓地原町部産だけであるが、生産量は原乳一日約五百リットルで村内の需要も不足している現状である。不足分は、村外から移入されているが、今後の一般消費の伸び、学校給食等の需要を見通すと、酪農経営の将来は明るい。ところで、同部産では乳牛の飼育で冬期出稼を解消はかかってきたが、雪の中の牛乳運搬に大きく労力を要し、ミルクを入れても飼養頭数を増し、経営規模の拡大をはかることができなかった。このほどようやく念願の原乳パイプ輸送施設が完成した。これは原町部産から開拓地まで約二・一キロをパイプを敷設し、牛乳を流し送るというものである。

村の栄養教室修了式

去る十一月十九日、四十三年度の栄養教室修了式がおこなわれました。午前中は、田沼小学校に於いて、今までの栄養教室修了生や受講生からの感謝状が授けられ、修了式が行われました。

普及料理コンクールも、九日、四十三年度の栄養教室修了式におこなわれました。午前中は、田沼小学校に於いて、今までの栄養教室修了生や受講生からの感謝状が授けられ、修了式が行われました。

水道だより

建設課 水道係
今年度は、長きにわたる水不足が続き、利用者各位におかれましては大変御苦労されたことと存じます。保たせしめて、どうしたか御迷惑に御迷惑をおかけしないよう、給水が出来るかと日夜検討しております。

さて、中央水道では幸い水源が豊富でありまして、現在の二倍に使用水量が伸びても、御迷惑をおかけしないだけの能力を持っています。これも豊水による給水がなければ出来なことであります。

年を追って改修される各家庭の生活状態、それに伴って使用水量は増加の一途を辿ることが考えられます。そこで、各家庭の水道におきましても、水源の確保は勿論、第一条件であることといたしております。

第八回 母子衛生大会開く 優良児表彰と講演会

去る十一月十五日、第八回中里村母子衛生大会が児童館において開催された。午前は、十日町保健所長さんはじめ、米養からの祝辞があり、上村病院、松沢小児科医長、藤田徳次郎医師の審査報告、ついで優良児及び三才児、五才児、優良母子衛生地区組織の表彰がおこなわれました。午後、医師で県の社会教育委員の特別講演があり、そのあと「母子衛生会」の発会式、ついで役員候補者から「中里村の母子衛生」について報告など、お母さん方は一日じゅうりと勉強しました。なお、中里村母の四十二年



度実績について、乳幼児死亡死産、人工妊娠中絶の減少は、乳幼児、妊産婦検診の受診率と各地区における、母子組織の重測定等、この事業によって、早期発見、早期治療が出来た結果と思われる。【写真は母子大会優良三才児の表彰】

年末、年始の防犯運動

12月1日～1月5日
年末には犯罪が多くなり、走はあわただしさに追われ、落ち着かないものが多い。郵便局や農協への時金や払い戻しも頻りになる。とにかかく十二月はお金がかたくさん動く月です。

◎戸締り等を厳重にして、空巣その他の盗防防止を各自が注意する。◎火災の予防につとめる。◎被害にかかった時は直ぐ警察署、駐在所へ届出すること。◎年末、年始の交通事故防止につとめる。

年末、年始は、人と車の通行が激しくなり、しかも天候が悪くなると、スリップ事故、追突事故がおきやすい時期です。また忘年会等で酒を飲み、機嫌が多くなり、よつらり運転をして、死亡事故等をおこす者が例年発生

しております。今年こそは、絶対に酒を飲んで運転することのないように、皆さんが注意して下さい。

◎今年度の交通警報
一月～十月末まで(一)内は前年同期件数、人数
発生、百三十三件(百一十一件)死者、六人(八人)、傷者百三十三人(百三十四人)となり、(二)歩行者のつとび出し二十一件(十六件)徐行しない十六件(十件)スピード出しすぎ十三件(十五件)酒酔い九件(二十一件)無免許一件(十一件)その他三十一件です。

飲酒運転の追放
◎車を運転する人に酒をすまない親切
◎一杯位は大丈夫の一杯が話を呼び、話しがさらに話を重ねることになりやすい
◎これは大丈夫だろうと思って運転することが大きな事故となりますから、運転する人は勿論のこと、その周りの人が注意してあげて下さい。

雪上車備付
寒雪時の急患用に、このほど八人乗り雪上車を、県より借り受けた。借受期間は、昭和四十三年十一月から四十四年十月三十一日まで

飲酒運転の追放
◎車を運転する人に酒をすまない親切
◎一杯位は大丈夫の一杯が話を呼び、話しがさらに話を重ねることになりやすい
◎これは大丈夫だろうと思って運転することが大きな事故となりますから、運転する人は勿論のこと、その周りの人が注意してあげて下さい。

雪上車備付
寒雪時の急患用に、このほど八人乗り雪上車を、県より借り受けた。借受期間は、昭和四十三年十一月から四十四年十月三十一日まで

飲酒運転の追放
◎車を運転する人に酒をすまない親切
◎一杯位は大丈夫の一杯が話を呼び、話しがさらに話を重ねることになりやすい
◎これは大丈夫だろうと思って運転することが大きな事故となりますから、運転する人は勿論のこと、その周りの人が注意してあげて下さい。



◎災害、緊急時における利用
の目的の用に供する機会に限り、市町村に貸し付けることができる。というものである。なお雪上車金額五百七十五万円のうち国が六分の四の三百四十三万八千円、県、村が六分の二の八十五万九千円を負担分となっている。【写真は八人乗り雪上車】

部 落 紹 介 通 り 山 部 落

部 落 紹 介
通 り 山 部 落
種魚の放流や、鯉仔の配布を、この地方の淡水養魚振興のセンターになっている。またこの境内には、三十本の桜が植えてあり花見時には、場内を解放してくれ

近頃の人がおれ夜おそくまで花見で賑う。毎年正月の十五日屋敷りをしてから、部落の人のほとんど全部が松焚の場所に集まり、厄年に当る人の合同厄払いがある。大人はミカン一箱、子供は飴や落花生などを一袋ずつ作った大きな台に昇り敷くのだが、若い娘さんや中年の婦人、若者、老人子供入り乱れ、賑々では起き、拾っては賑ひミカンを拾う光景は昔からの部落に続いている。正月のもっとも楽しい行事である。(Y・U記)